

1. 策定の趣旨

本企業団では、水道事業を取り巻く環境の変革期の中で将来にわたって安全な水を安定して供給するため「三井水道企業団水道ビジョン（以下、本ビジョンという）」を策定し、「安心・安全な水を安定供給し、地域に根差した頼れる水道」という基本理念のもと、今後、取り組むべき事項、方策を提示します。

本ビジョンの計画期間は令和6年度～令和15年度までの10年間とします。

2. 現状と将来見通し

①人口・水量

全国的な傾向と同じく、将来の給水人口は緩やかに減少する見通しです。その一方で、核家族化や下水道整備の進展に伴い、一人当たりの使用水量が増加しているため、有収水量は緩やかに増加する見通しです。

②老朽化

法定耐用年数を超過した管路の割合は増加傾向にありましたが、積極的に管路を更新した結果、近年は緩やかに低下しています。

設備については、各施設の更新を進めたことにより、令和4年度末現在で法定耐用年数超過設備率は10%以下と健全な状態となっています。

③耐震性

配水池の耐震化率は横ばいで推移しています。全国中央値や福岡県中央値よりも高いですが、100%には達していません。

④財政収支

効率的な維持管理や計画的な更新など日頃の企業努力に加え、水需要が緩やかに増加していることもあり、経常収支比率は緩やかに上昇しています。

⑤職員

年度によって多少の増減はあるものの、概ね事務職員7名、技術職員7名の計14名で事業を運営しています。

技術職員は各世代にまんべんなく所属していますが、事務職員は50歳以上が4名と事務職員の約半分を占めています。

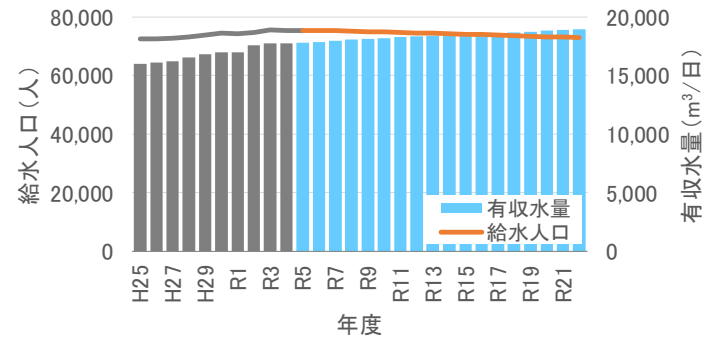


図1 人口・水量の将来見通し

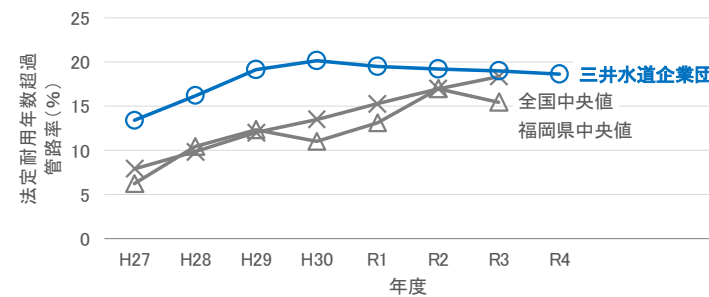


図2 法定耐用年数超過管路率の推移

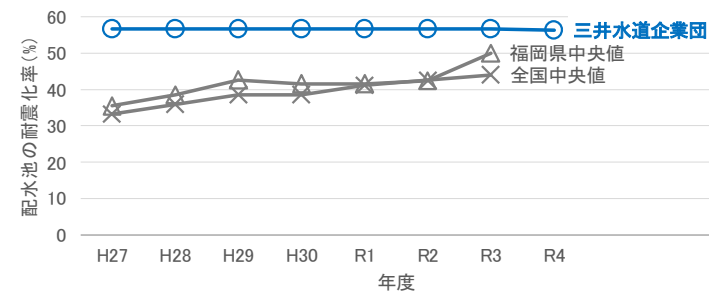


図3 配水池の耐震化率の推移

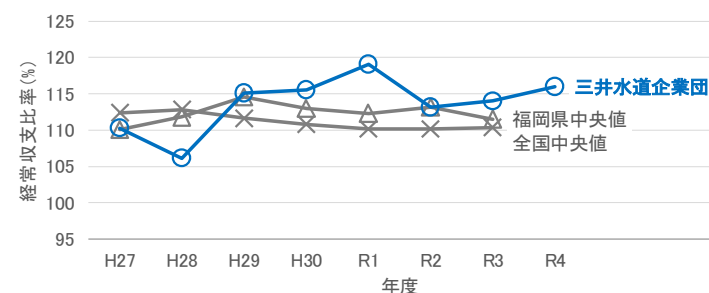


図5 経常収支比率の推移

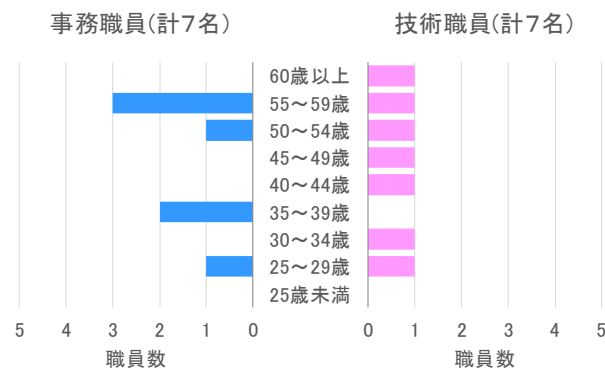


図4 職員数と年齢構成

3. 基本理念と実施方策

三井水道企業団水道ビジョン 施策体系

